

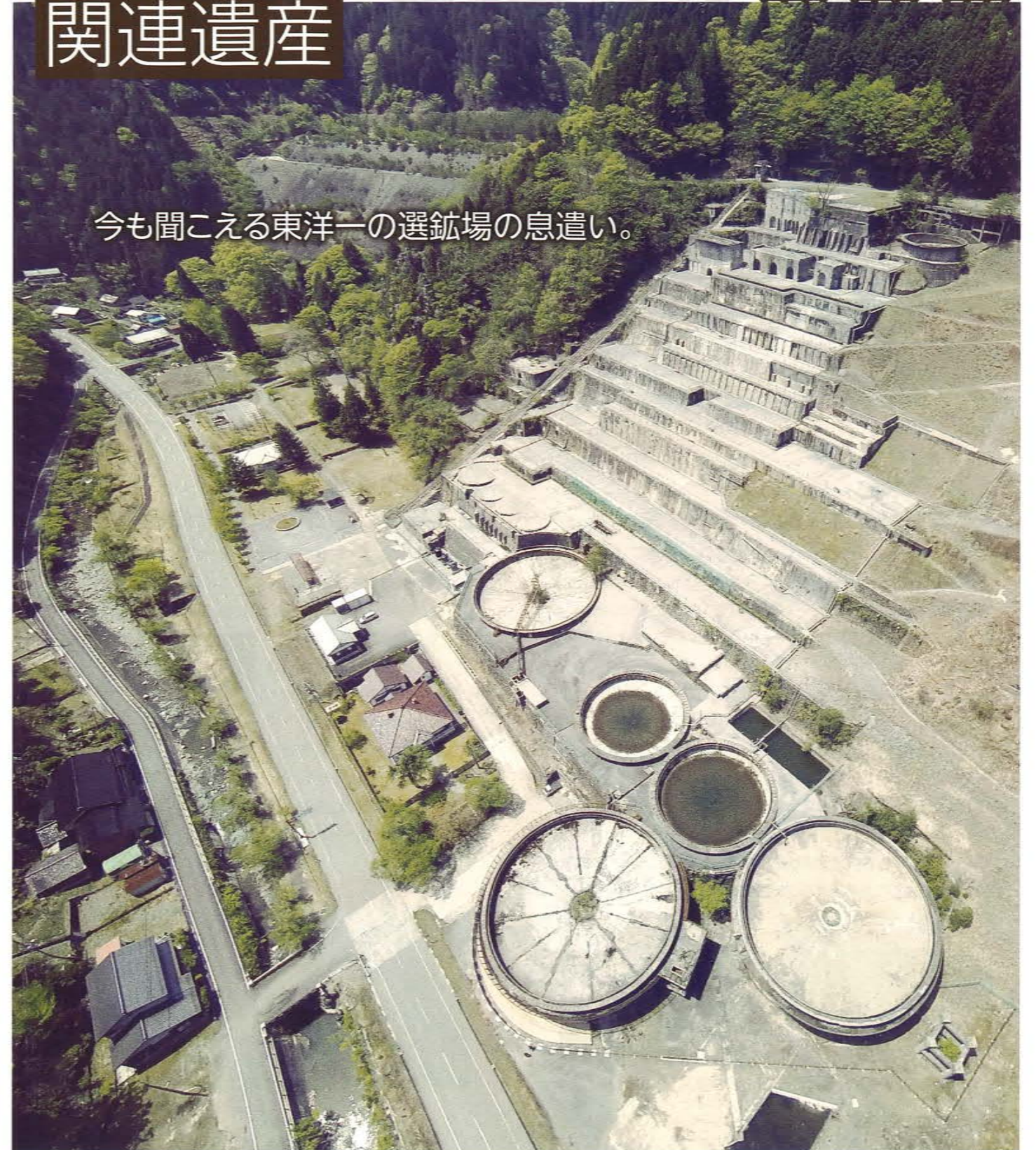
MAP



神子畑
選鉱場跡
と鉱山
関連遺産



今も聞こえる東洋一の選鉱場の息遣い。



GOODS

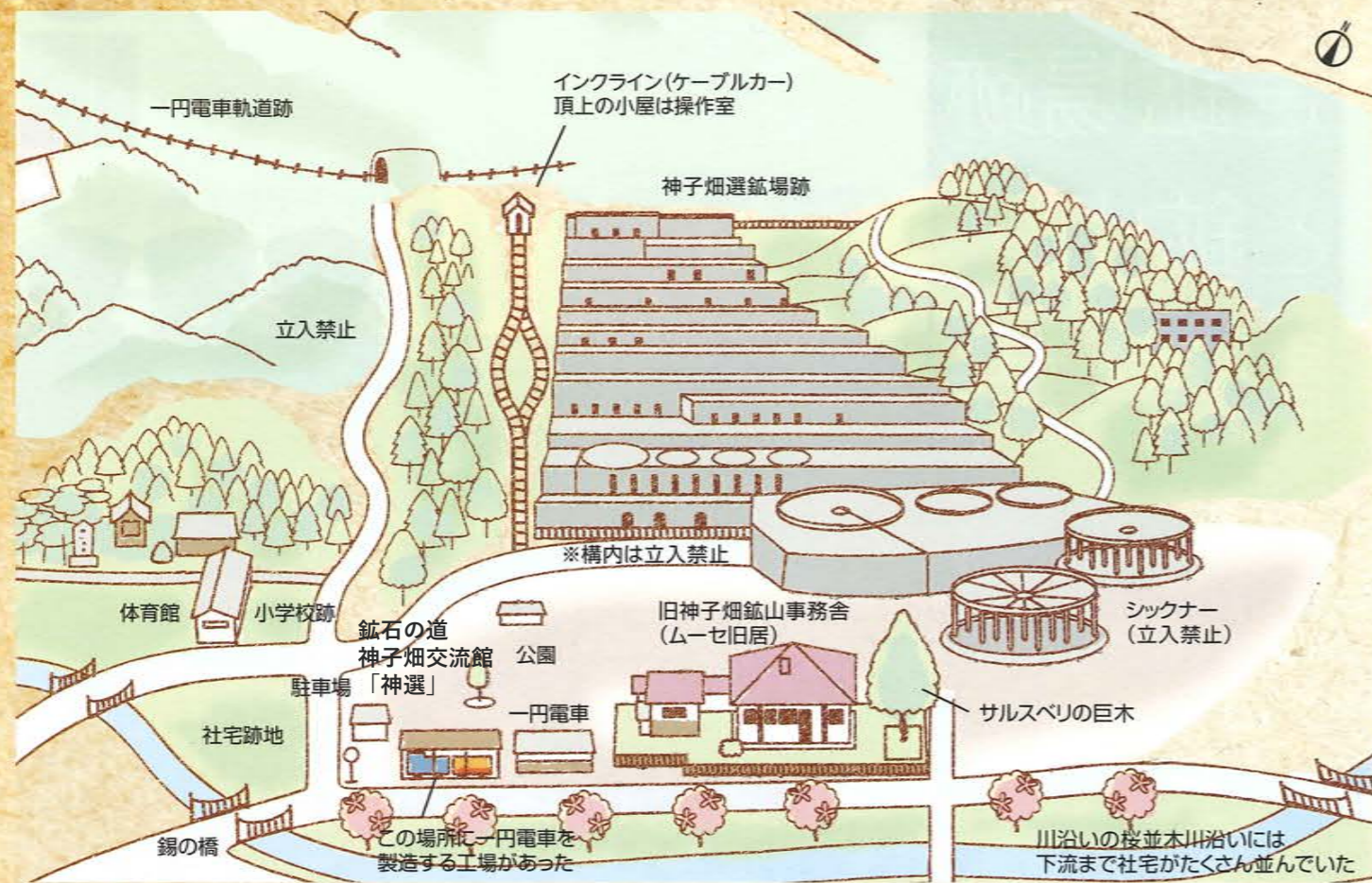


〈地元ガイド〉今も受け継がれる神子畑の歴史

神子畑の魅力は、選鉱場跡や鑄鉄橋などの遺構だけではありません。その歴史を伝えてくれるガイドたちの話も欠かすことのできない魅力の1つです。現在、神子畑では歴史を伝えるため、地域の人々がガイドを行っています。歴史を知った上で見学すると、また違った目線で見ることができると、是非体験してみてください。またムゼジ居では、東京のデザイナー「マニアパレル」とコラボして制作したシックナーをモチーフにしたTシャツや手ぬぐいなどの神子畑オリジナルグッズなども販売しています。

●神子畑鉱石の道推進協議会

- 神子畑選鉱場跡を中心に約1時間のガイドをおこないます。
- 住所：兵庫県朝来市佐養1842-1 鉱石の道神子畑交流館1神選1内
- 実施時間：10:00-17:00
- 料金：ガイド一人につき2,000円(15名程度から受付。ガイドを2名以上希望の場合は要相談。ガイドの数に限りがあるのでお受けできない場合があります)
- 予約：要事前予約(駐車スペースも限られているので車の台数も要相談)
- 電話番号：079-666-8002



〈神子畑とは?〉
不夜城と呼ばれた東洋一の選鉱場

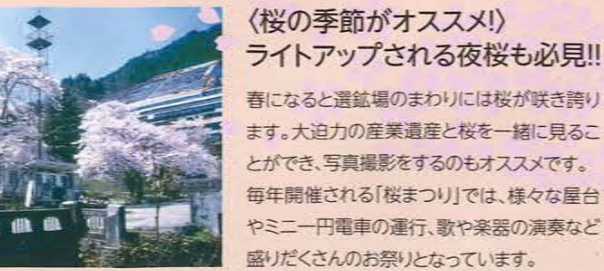
神子畑選鉱場跡は、かつて鉱山として繁栄していました。その歴史は古く800年頃から銀と銅を産出する鉱山として開拓され、一時は生野銀山の支山として幕府の管理下に置かれました。しかし、明治29年に三菱へ払い下げ後、探掘が不況となり大正6年に閉山。その後大正8年、明延鉱山から運び込まれた鉱石を選鉱する大規模な選鉱場として生まれ変わることとなりました。山の斜面を利用した選鉱場は、規模も産出量も「東洋一」と謳われ、夜中も稼働している姿は不夜城とも称されました。残念ながら昭和62年、円高の急激な進行で競争力を失った明延鉱山の閉山に伴い、本選鉱所も操業を終了し閉鎖。現在、建屋は解体され、基礎部分が残るのみとなりましたが、日本の近代化に貢献した産業遺産として注目を集めています。



選鉱の最終行程である脱水・濃縮が行われた濾過装置。直径30mのものは、百尺シクナーと呼ばれていました。

〈インクライン〉
選鉱場を上下に行き来した傾斜軌道

選鉱場跡には人や物資の運搬を行うためにインクライン(傾斜軌道)が設けられていました。インクラインにはレール・枕木・バラスト・操作室が現存しています。台車は2台設置されており、頂上の操作室で巻揚機を動かして昇降させていました。レールは単線構造ですが、軌道の中ほどは複線となっており台車が行き違えるようになっていました。軌道内に立ち入ることはできませんが、インクラインが選鉱場上部まで延びる様子を望むことができます。



〈桜の季節がオススメ!〉
ライトアップされる夜桜も必見!!
春になると選鉱場のまわりには桜が咲き誇ります。大迫力の産業遺産と桜と一緒に見ることができ、写真撮影をするのもオススメです。毎年開催される「桜まつり」では、様々な屋台やミニ一円電車の運行、歌や楽器の演奏など盛りだくさんのお祭りとなっています。



〈ムーセ旧居〉フランス人技師の宿舎

明治5年に生野鉱山に造られた外国人技師ムーセの宿舎で、神子畑に鉱山が開発されてからは事務所として移築されました。現在、中では選鉱場が稼働していたときの模型や写真を見ることが出来ます。神子畑選鉱場跡オリジナルグッズも販売しています。



〈神子畑鑄鉄橋〉日本一古い鑄鉄橋

明治16~18年頃にフランス人技師の指導のもと、神子畑鉱山と生野鉱山を結ぶ鉱石運搬道路の一部として造られた鑄鉄橋です。鉄製の橋としては日本で三番目、全てが鑄鉄製の橋としては日本最古の歴史を持っています。国の重要文化財に指定されています。



〈一円電車〉
運賃わずか1円!? 神子畑で生まれた一円電車

明延鉱山で探掘された鉱石を運ぶために造られた電車。正式名称は明神電車と言います。車体は神子畑の機械工場で製造されました。人車も運行され乗客数を把握するため、運賃を一人一円にしていたことから「一円電車」と呼ばれるようになりました。



〈神新軌道跡〉
道路脇にある小さなトンネル跡

神子畑に向かう道を車で走っていると突如現れる小さなトンネル跡。これは選鉱場と国鉄新井駅をつないだ神新軌道のトンネルの跡で、現在はコンクリートで封鎖されているため、外観のみ見学可能です。



〈神子畑小学校体育館跡〉
今も残る学舎の跡

明治33年に創立した小学校で、最盛期には200名以上の子どもたちが通っていましたが昭和47年4月1日、山口小学校に統合されることとなり、廃校となりました。現在、学校跡にはプレコン工法で造られた体育館や校庭には遊具も残されています。



〈御神輿〉
菊の御紋が入った御神輿

鉱山が操業していた頃は毎年春に山神祭が開かれ、立派な神輿が町内を練り歩きました。現在も御神輿は大切に保管されています。また、御神輿には皇室財産の名残である菊の御紋があしらわれています。



〈サルスベリの樹〉
県内有数の巨木

郷土記念物に指定されています。兵庫県の地域の人々の暮らしを永年見守ってきたサルスベリの樹は地域のシンボルとして親しまれています。樹齢約200年。



〈試掘坑(しくつ坑)〉
貴重な鉱山時代の名残

明治初期に銀の鉱脈が有るのでは、と試し掘りした跡になります。結果鉱脈は発見できず試掘した跡が数カ所残されています。坑口160cm 奥行き60m